

入選

小さな親切

香川県 木太中学校 3年 大當 陽南

ある日、私は公園で遊んでいたのですが、塾があるためみんなよりも早く帰ることにしました。まだ遊びたい気持ちもある中、塾に間に合うように速く自転車を走らせていたそのときです。地下道に倒れている一人の男性を見つけました。その地下道を通るつもりはなかったのですが、自転車を近くに置き、私の足はその人の方へと無意識に走り出していました。

男性の元へたどりついたとき、私は驚きました。その人は車いすに乗っていた方だったのです。一人で地下道を下りようとしたら、横の階段の方へと進んで転倒してしまった、ということでした。

私はすぐに車いすをひっぱり、スロープの方に置き、ブレーキをかけて、そこに男性を座らせようとしたのですが、相手は大人です。私の力では持ち上げることができませんでした。そのとき、男子高校生三人がこの地下道を通ろうとしていたのです。そこで、

「お願いします。助けてください。」

と大きな声で私は呼びかけました。しかし、その高校生たちは、

「ごめん、今時間ないんだよね。」

という言葉を残してその場から立ち去ってしまいました。本当にそのときは、あ然としました。なんでそんなことが言えるのか、不思議でなりませんでした。

それからは、60代ぐらいの男性一人と、30代ぐらいの夫婦がやってきて無事助けることができました。助けたあとは、車いすに乗っていた方に、なんどもなんども、

「ありがとう、本当にありがとう。」

という言葉をかけてもらいました。また、

「これからも人を助けることのできる立派な大人になるんだよ。」

という言葉もかけてくださり、すごく心があたたまると同時に、絶対そういう大人になるぞという覚悟ができました。もちろん、塾は遅れたのですが、もし倒れていた人を助けず塾に間に合っていたとしても、自分の心には後悔の気持ちしかなかったと思います。

今回出会った高校生たちは、本当に時間がなかったのかもかもしれません。でも、目の前に人の助けを必要としている人がいるのに、なんでそれを無視するような行為ができるのか、なんで助けるときに一番力になれる自分たちが今動くべきだと思わなかったのか、今でも理解はできません。

しかし、そういった人たちも自分が助けられたら、助け合うことのすばらしさを感じることができると思います。だから、人助けをできる人が少しずつまわりのみんなを助けていく。すると、まわりのみんなはきっとその大切さ、ありがたさに気づくことができると思います。そこから人助けという小さな親切の輪はどんどん広がっていくのではないのでしょうか。

私は、今回体験したことを生かして、まわりのみんなが困っていたらすぐに行動し、助けるということをして、車いすの方がおっしゃった言葉をいつまでも頭に入れ、それを目標に日々生活していきたいです。